

## 次期障害者計画策定のためのアンケート等調査結果概要

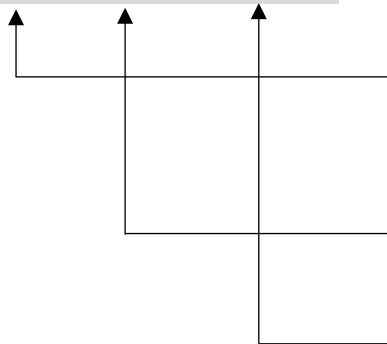
### 1 概要

本調査結果概要は以下調査結果内容について、現計画の体系に即して整理したものになります。なお、調査範囲が幅広いことから、本資料に明記した内容は現計画に即した内容を中心としたものとなります。

NO	調査対象	対象者数	方法
1	障害者向け調査（18歳以上）	4,000人	書面
2	障害児向け調査（18歳未満）	1,000人	書面
3	市民向け調査	1,000人	書面
4	医療的ケア児調査	85人	書面
5	障害福祉サービス事業所調査	287事業所	書面
6	関係団体ヒアリング （当事者団体、自立支援協議会内各部会、基幹相談支援センター）	16団体	書面/ZOOM

※ 出典元データについては次のとおり記載します。

**(者-問〇〇-〇〇頁)**



調査対象を略称で表記します。

者と明記されている場合 ⇒ N01 の調査内容

団体と明記されている場合 ⇒ N06 の調査内容

アンケート調査の場合、  
調査票上の問番号を表記します。

別紙「アンケート調査報告書」、「ヒアリング調査結果報告書」における頁番号を表記します。

## 2 調査結果

### (1) 第1節 地域共生社会の実現に向けた相互理解の促進

#### ➤ 現計画目標値

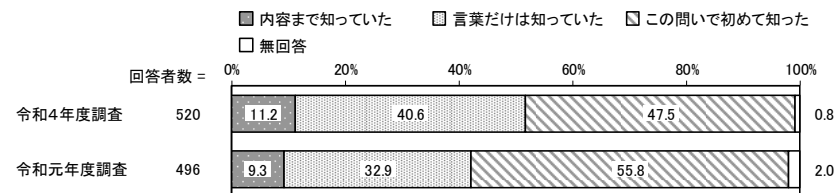
施策項目	指標値	令和元年度	令和4年度	目標値
市民意識の醸成	「障害のある人とふれあう機会がない」と回答した人のうち「交流したいと思わない・わからない」と回答した人の割合（市民-問 4-193 頁）	42.9%	28.4%	21.0%
地域福祉活動の推進	「ボランティア活動に参加したことがある」と回答した人の割合（市民-問 20-207 頁）	22.1%	20.6%	23.0%
権利擁護体制の推進	人権を損なう経験について「特にない」と回答した人の割合（者-問 45-71 頁） （児-問 46-161 頁）	65.4%(者) 65.5%(児)	67.4%(者) 64.8%(児)	100%

#### ➤ 現計画参考指標

目標	令和元年度	令和4年度	目標値
「障害のある人に対する差別・偏見があると思う」と回答した人の割合（市民-問 9-199 頁）	身体 46.2%	身体 47.9%	身体 0%
	知的 57.1%	知的 58.5%	知的 0%
	精神 56.9%	精神 58.5%	精神 0%
「成年後見を知っている」と回答した人の割合（者-問 49-76 頁）	40.7%	43.8%	50%
「合理的配慮を知っている」と回答した人の割合（者-問 47-74 頁）	15.9%	19.7%	24%

#### ➤ 参考数値

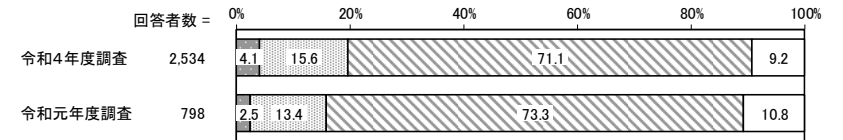
##### I. 地域共生社会の認知度（市民-問 6-195 頁）



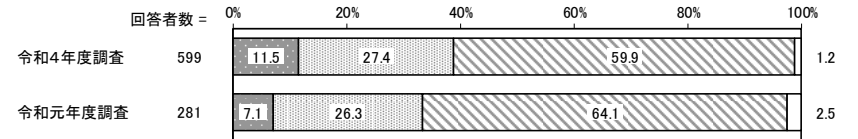
##### II. 合理的配慮を知っていますか。また、合理的配慮を求めたことがありますか。（者-問 47-74 頁、児-問 48-163 頁）

- 知っており、合理的配慮を求めたことがある
- ▨ 知っているが、合理的配慮を求めたことはない
- ▧ 今まで知らなかった
- 無回答

##### （障害者）



##### （障害児）



#### ➤ 関係団体ヒアリング意見（一部略称）

- ・ 「福祉バザー」① ようやく新型コロナウイルス感染症に対する規制が緩和されてきて、出店できるようになってきた。当事者たちはやりがいを感じている。この事業は継続して進めてもらいたい。② 各事業所の製品を販売する機会があまりにも少ない。社会とつながり、利用者の活動の様子を知らせる機会なので、もっと積極的な取り組みにしてほしい。（関係団体-5 頁）
- ・ 「成年後見支援センターの設置」成年後見は利用者数の伸びが鈍いと聞いている。啓発講演会はとて素晴らしいことだと思うので、「演劇で分かりやすく学ぼう」の動画の視聴期間をもっと長くするなど、たくさんの人に啓蒙する機会を増やしてほしい。後見報酬は、被後見人にとっては長期間報酬を支払うので後見を受けることをためらう大きな原因になっている。一方、後見人は仕事量に見合った報酬額を受け取れない恐れがある。双方のために行政の支援が欲しい。（関係団体-7 頁）
- ・ 「障害者虐待の防止・対応」基本的な取り組みについては大きな変更は必要ないと思うが、市民と障害者とその支援機関が意見交換等のできる場が必要。障害者虐待ではなく、3虐待（児童・障害・高齢）の中での取り組みを、これまで以上に進める。例）虐待防止センター等（基幹相談支援センター-19 頁）

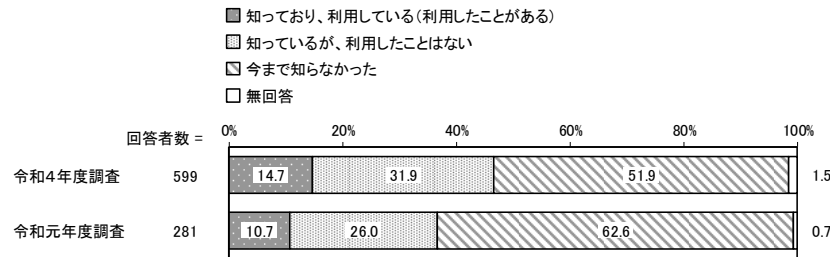
(2) 第2節 ライフステージに応じた切れ目のない支援

➤ 現計画目標値

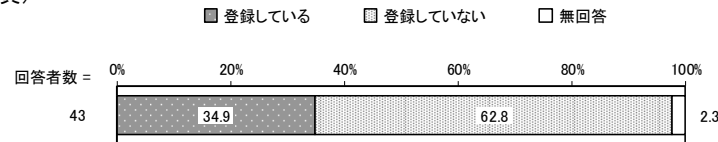
施策項目	指標値	令和元年度	令和4年度	目標値
障害の早期療育 につなげるため の早期発見	乳幼児健診の受診率	乳児(3-4 か月)		98%
		乳児(6-7 か月)		95%
		乳児(9-10 か月)	-	95%
		1歳6か月		97%
		3歳児		95%
障害に応じた療 育の充実	施設巡回相談の件数	201 件	-	250 件
特別支援教育等 の充実	知的障害特別支援学級、自閉症・情 緒障害特別支援学級の設置数	87.7%	-	100%
医療的ケア児等 の支援体制の整 備	「医療的ケアを実施している」と 回答した事業所の割合 (事業所-問 25-311 頁)	10.3%	8.1%	11.8%

➤ 参考数値

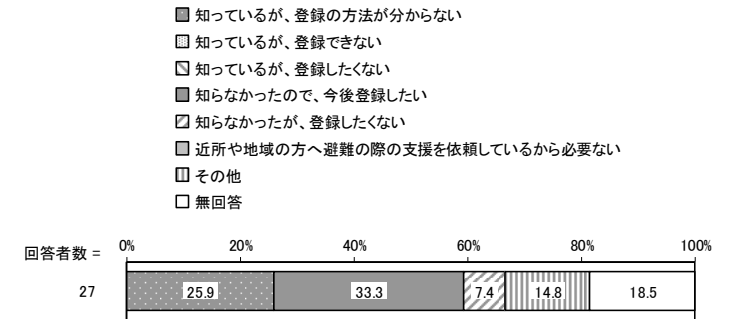
I. ライフサポートファイルの認知率 (児-問 26-137 頁)



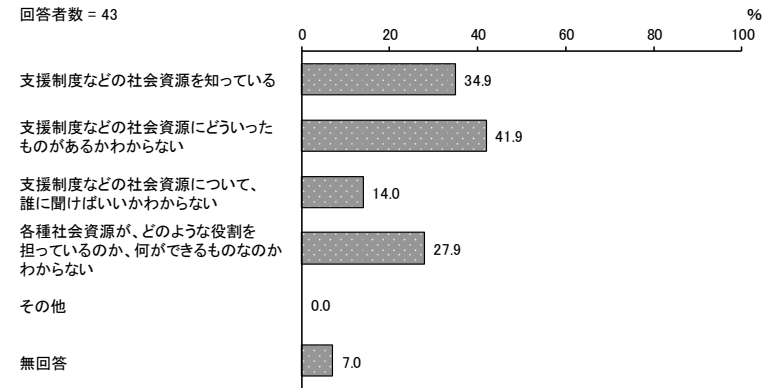
II. 避難行動要支援者避難支援制度を知っていますか(医ケア-問 49-264 頁)



(避難行動要支援者避難支援制度に登録していない理由)



III. 社会資源 (支援制度、施設、設備、法律、団体等) について、知っていますか。(医ケア-問 25-245 頁)



➤ 関係団体ヒアリング意見 (一部略称)

- ・ 「医療的ケア児等の支援体制の整備」アンケートからレスパイトへのニーズが明らかになっているにもかかわらず、具体的な取り組みに、レスパイトの充実に直接関係する事業が掲載されていないように感じる。(自立支援協議会部会-26 頁)
- ・ 「医療的ケア児の支援のための連携推進会議」医療的ケア児の支援のための連携推進会議をはじめ、相談 (コーディネーター)、計画、サービス提供事業所、子育て支援を中心とした支援体制など、充実した事業を展開出来ている。(基幹相談支援センター-19 頁)

(3) 第3節 生きがいをもった社会参加の促進

➤ 現計画目標値

施策項目	指標値	令和元年度	令和4年度	目標値
障害のある人への就労の支援	松戸市内の法定雇用率達成企業割合	46.9%	-	100%
地域とつながるスポーツ・文化活動等の支援	障害者福祉センターふれあい教室の利用者数	4,725 人	-	5,500 人

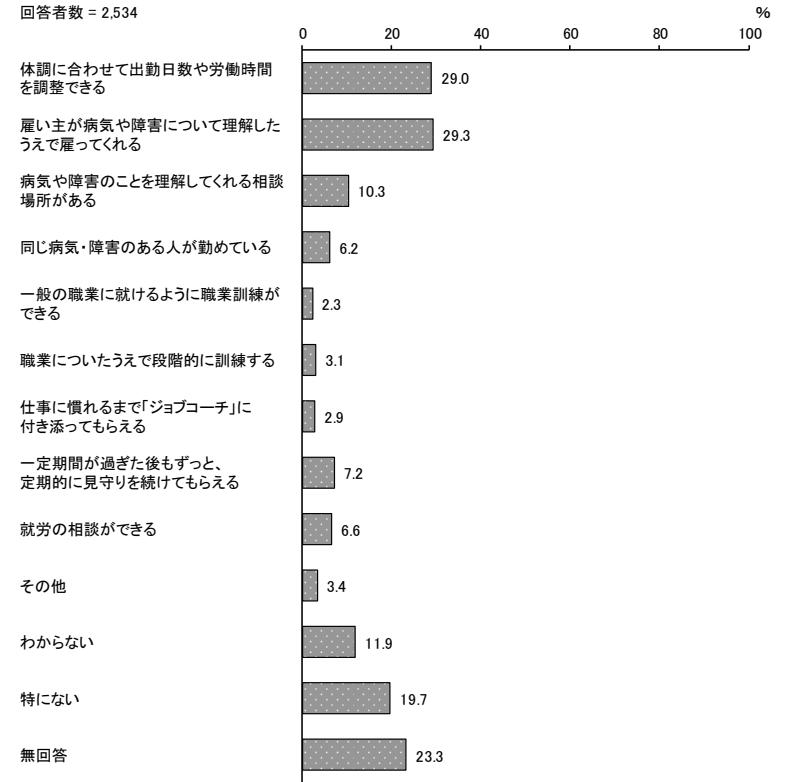
➤ 参考数値

1. 将来日中をどのように過ごしたいですか (者-問 33-51 頁)

区分 縦軸…現在 横軸…将来の希望	回答者数 (件)	回答内容													
		正職員として、松戸市内企業で勤務したい	正職員として、松戸市外企業で勤務したい	正職員以外として、松戸市内企業で勤務したい	正職員以外として、松戸市外企業で勤務したい	在宅勤務をしたい	自営業を営みたい	障害のある人のための就労施設を利用したい	障害のある人以外の通所サービスを利用したい	病院などのデイケアを利用したい	学校に通いたい	家庭内で過ごしたい	その他	特にない	無回答
正職員として、松戸市内企業に勤務している	58	65.5	-	6.9	-	3.4	1.7	1.7	-	-	6.9	1.7	6.9	5.2	
正職員として、松戸市外企業に勤務している	167	13.8	39.5	3.0	1.8	7.8	1.2	1.2	0.6	-	0.6	10.2	4.2	3.6	
正職員以外として、松戸市内企業に勤務している	82	18.3	2.4	42.7	1.2	2.4	1.2	1.2	1.2	-	-	8.5	6.1	7.3	
正職員以外として、松戸市外企業に勤務している	166	10.8	17.5	10.8	27.1	4.2	0.6	1.8	-	0.6	-	6.0	5.4	6.0	
在宅勤務をしている	25	8.0	4.0	4.0	-	52.0	8.0	-	-	-	-	12.0	-	4.0	
自営業をしている	82	1.2	-	1.2	-	2.4	50.0	2.4	-	-	-	17.1	6.1	8.5	
障害のある人のための就労施設を利用している	156	10.9	5.1	5.1	1.3	5.1	0.6	47.4	2.6	-	0.6	3.2	3.8	6.4	
障害のある人のための就労施設以外の通所サービスを利用している	214	2.8	-	0.9	-	0.9	0.5	4.2	51.4	3.3	-	13.1	3.3	8.4	
病院などのデイケアを利用している	44	6.8	-	2.3	-	-	-	2.3	4.5	36.4	-	6.8	9.1	18.2	
学校に通っている	15	13.3	33.3	-	6.7	6.7	6.7	6.7	-	-	13.3	-	6.7	-	
家庭内で過ごしている	1,143	2.5	1.0	1.7	0.5	3.2	0.9	2.1	2.8	2.2	0.3	54.2	4.1	8.5	
その他	168	4.8	2.4	1.8	-	2.4	-	1.8	4.2	2.4	-	19.0	16.1	6.0	

II. どのような条件が整えば、働きやすくなると思いますか (者-問 34-52 頁)

回答者数 = 2,534



➤ 関係団体ヒアリング意見 (一部略称)

- ・ 「就労支援・雇用の促進及び安定」手帳を所持していない難病患者はこれらの施策の蚊帳の外である。ビッグ・ハートでもほとんど事例がないとのこと。多くの難病患者は1人で抱え込んで頑張っているのが現状である。千葉労働局が行っている難病患者就職サポーターについて周知して欲しい。(関係団体-8頁)
- ・ 「優先調達推進法の周知・啓発」優先調達推進法について、松戸市として県内で高い水準になったと思うが、一箇所に集中するということがあり、今後どのように進めていくのが課題。(自立支援協議会部会-24頁)

(4) 第4節 自立した地域生活の支援

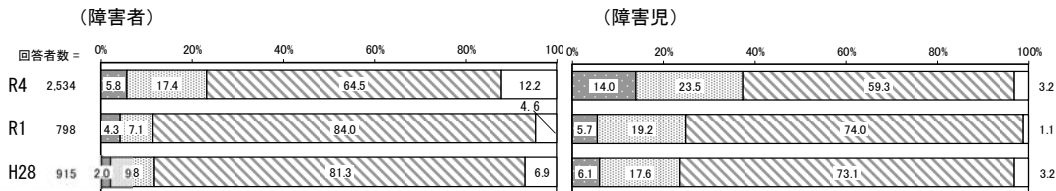
➤ 現計画目標値

施策項目	指標値	令和元年度	令和4年度	目標値
障害の原因となる傷病の予防と治療	特定健康診査の受診率	36.2%	-	60.0%
障害福祉サービスの充実	基幹相談支援センターによる地域の人材育成・ネットワーク構築の研修等の実施回数	7回（コロナの影響で2回中止） 延べ参加者313人	-	9回 延べ参加者393人
生活の安定のための支援	-	-	-	-
相談支援体制の充実	「基幹相談支援センターを知っている」と回答した人の割合（者-問23-37頁）	11.4%	23.2%	50.0%
情報アクセシビリティの向上及び意思疎通支援の充実	「手話をコミュニケーションの手段として積極的に学んで使いたい」と回答した人の割合（市民-問34-217頁）	3.40%	7.7%	10%

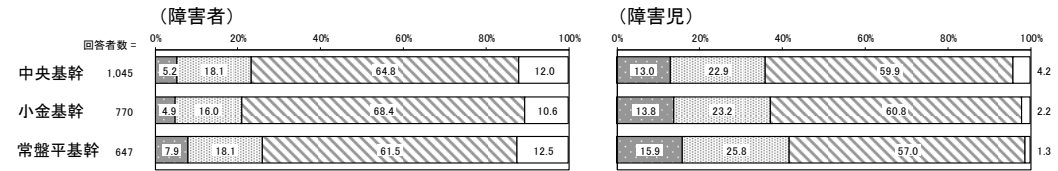
➤ 参考数値

1. お住まいの地域の基幹相談支援センターを知っていますか。（者-問23-37頁、児-問24-135頁）

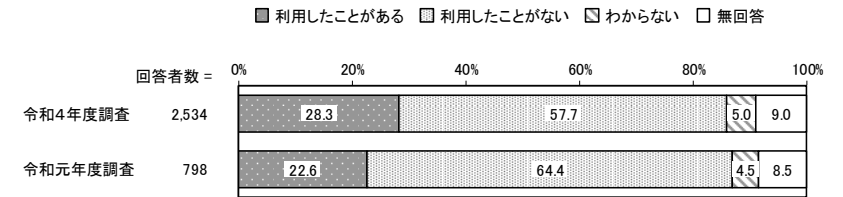
- 知っており、利用している（利用したことがある）
- 知っているが、利用したことはない
- 今まで知らなかった
- 無回答



(センター別認知率)



II. 過去1年の間に、障害福祉サービス等を利用したことがありますか。（者-問18-27頁）



➤ 関係団体ヒアリング意見（一部略称）

- ・ 「基幹相談支援センター支援事業・障害者相談支援事業」基幹相談支援センターと相談支援の連携というのをしっかり謳ってほしい。相談支援員たちもかなり基幹には期待しているし、頼りたいと思っているけれども、基幹がかなり忙しいとか、電話に出てもらえないとか、業務内容がとて多いうのが出ている。基幹と相談支援が連携して、相談支援をフォローアップできる支援体制をつくって、地域の計画相談をもっと充実させてほしい。障害特性に特化した人にすぐ相談できない状況にもなっている。（自立支援協議会部会-23頁）
- ・ 「ひきこもり支援事業」ひきこもりは当事者全てが障害者ではないため、障害分野での相談窓口に抵抗がある当事者・家族もいる。障害分野に限らず、様々な分野での相談窓口や居場所の充実が必要である。（関係団体-15頁）
- ・ 「ひきこもり支援事業」行政の横断的な連携と役割分担が必要になる分野であり、センターの設置だけでは解決困難である。（基幹相談支援センター-20頁）

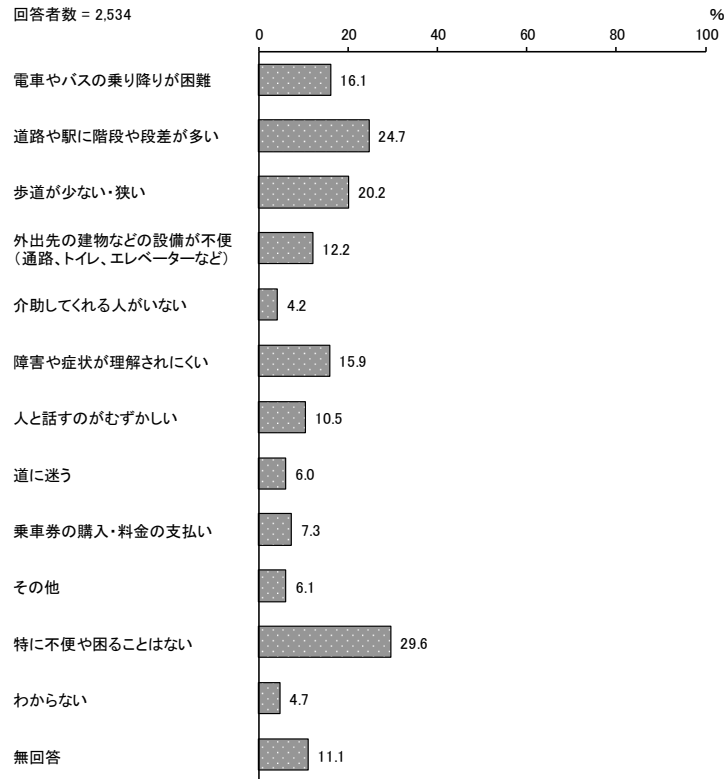
(5) 第5節 安全安心なまちづくりの推進

➤ 現計画目標値

施策項目	指標値	令和元年度	令和4年度	目標値
生活しやすいまちづくり	道路のバリアフリー化地区別完了率	11.8%	-	17.6%
防犯・防災及び感染症等の対策の推進	避難行動要支援者名簿貸出件数	103 件	-	100 件

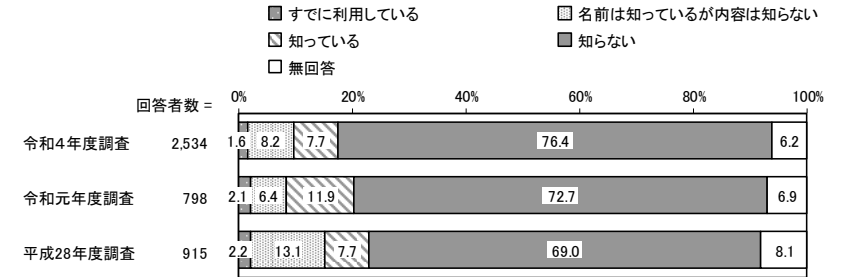
➤ 参考数値

1. 外出のとき、困ることがありますか。(者-問 39-60 頁)

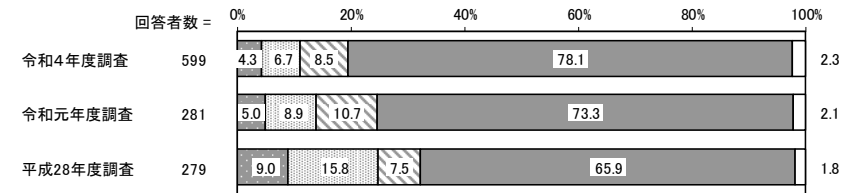


II. あなたは、避難行動要支援者避難支援制度を知っていますか。(者-問 57-86 頁、児-問 58-176 頁)

(障害者)



(障害児)



➤ 関係団体ヒアリング意見 (一部略称)

- ・ 「避難支援体制の整備」避難所で障害者の存在を知らせる「バンドナ」を作成したのは良いと思います。(関係団体-13 頁)
- ・ 「防災や感染症等対策に関する障害福祉サービス事業所との連携」災害時における障害者等の避難場所や避難計画は状況次第で、臨機応変が前提になると思われる。ここでも対人関係に問題がある精神障害者・家族への対応が難しい。(関係団体-13 頁)